

Senzoku Gakuen College of Music
Green-Tie Wind Ensemble

洗足学園音楽大学
グリーン・タイウインド・アンサンブル
演奏会



2021.11.30

18:00 開演

17:30開場 / 20:00終演予定

洗足学園 前田ホール



主催

洗足学園音楽大学・大学院



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場して下さい。
- ・客室内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

電子プログラムについてのお願い

- ・客席内は電波を遮断しておりますので、ダウンロードは、ロビーなどインターネットに繋がる環境にてお願いします。
- ・演奏中のスマホ、タブレット端末等電源オフの必要はありません。ただ、不用意に音が出ないように留意願います。
- ・基本的には、演奏中のプログラムの閲覧はご遠慮いただき、ぜひ、演奏に目や耳を傾けていただけたらと思います。しかし、もし演奏中にプログラムをご覧になりたい場合には、周りのお客様のご迷惑にならないよう、画面の明るさなどにご配慮をお願い申し上げます。

洗足学園音楽大学
グリーン・タイ ウインド・アンサンブル演奏会に
ご来場いただき
ありがとうございます
最後までごゆっくりお楽しみください

Twitter



Instagram



SENZOKU.GWE

ぐりんぐりん吹奏楽!Green-Tie Tube

 YouTube



Facebook





高昌帥 KOH Changsu

大阪音楽大学作曲専攻卒業後、スイス・バーゼル音楽アカデミーに留学。

これまでに作曲を田中邦彦、R.ケルターボーンの各氏に、指揮をJ.マイヤー氏にそれぞれ師事。

第1回コダーイ記念国際作曲コンクール佳作、第12回朝日作曲賞受賞（2002年吹奏楽コンクール課題曲『ラメント』）、平成20年度・24年度JBA「下谷奨励賞」受賞、第19回吹奏楽アカデミー賞作・編曲部門受賞等。

現在、大阪音楽大学教授。日本現代音楽協会、関西現代音楽交流協会、21世紀の吹奏楽“響宴”各会員。

プロ・アマ問わず多数の委嘱を受け、管弦楽・吹奏楽・室内楽など様々な編成の作品を作曲する傍ら、現代音楽の指揮、アマチュアオーケストラや市民バンドの指導にも携わる。

代表作に、音楽劇「河内湖」（初演：フェスティバルホール）、ソプラノ独唱とバリトン朗読、オーケストラのための「あなたに」（初演：ザ・シンフォニーホール）、ソロ・パーカッションとウィンドオーケストラの為の「雷神」（初演：カーネギーホール）等。

Programme

高 昌帥／今、吹き渡る風 (約3分半)
Koh, Chang Su (*1970) / NOW, the wind blows (2016)

F.ティケリ／ヴェスヴィアス (約8分半)
Frank Ticheli (*1958) / Vesuvius (1999)

～カレル・フサ生誕100年記念～
K.フサ／チーター (約6分)
Karel Husa (1921-2016) / Cheetar (2007)

大栗 裕／大阪俗謡による幻想曲 (約13分)
Ohguri, Hiroshi (1918-1982) / Fantasy on Osaka Folk Tunes (1956/1974)

休憩

高 昌帥／まじなひ～その参 (約7分半)
Koh, Chang Su / MAJINAHl, the Third (2020)

高 昌帥／ナイトフォニー (約10分)
Koh, Chang Su / Nightphony (2019)

高 昌帥／コリアン ダンス (約16分)
Koh, Chang Su / Korean Dances (2002)
1. Preludio
2. Passacaglia
3. Rondo – Finale

指揮：高 昌帥

Koh Chang Su, Conductor

高昌帥さんとのご縁

伊藤康英

高昌帥さんと初めて会ったのは2001年初夏だった。2002年度の吹奏楽コンクール課題曲の審査会にて、東京佼成ウインドオーケストラを指揮した際、彼の応募作《ラメント》のリハーサルに駆けつけてきてくれたとき。優れた作品がたくさんあった中で彼の作品は際立っており、いっそうの思いを込めて、楽譜にはないアゴーギクをつけて指揮したのだった。それが課題曲として採択されるに及んで、彼の名はすぐさま知られるようになった。ちなみにこの曲を公開の場で初めて指揮をしたのもぼくだと思う。2002年度の課題曲が発表されるや否や、当時指揮をしていたくらしき作陽大学の吹奏楽のコンサートで取り上げたのだった。(けれど、高さんはその演奏に間に合わず、それでも終演後に一緒に食事に行ったのを思い出す)。

次に高さんの作品を指揮したのは、2005年夏。シンガポールで行われたWASBE(世界吹奏楽大会)の際、IYWO(インターナショナル・ユース・ウインド・オーケストラ)の指揮を担当することとなり、ぜひ彼の作品を世界に紹介したいと思い、《コリアンダンス》を取り上げた。このときは、当時落成間もないシンガポールのエスプラネード・ホールに一泊二日の強行軍で聴きにきてくれた。そのときに、これからも日本の吹奏楽にぜひ優れたレパートリーを、と話した記憶がある。

それからの彼の活躍は目を見張るものがあり、優れた吹奏楽作品を次から次へと発表してくれている。日本で吹奏楽を書いている作曲家の中で、彼には一目置いているので、彼の活躍は誠に嬉しい。

大阪在住なため、あまりお会いする機会はないのだが、この数年で会ったと言えば、彼が勤務する大阪音楽大学の吹奏楽のコンサートで、《吹奏楽のための協奏曲》が初演されたとき。指揮の井上道義さんが、ほんとうは数分程度の短いファンファーレ的な作品だったはずが、こんなに長い曲を書いてきて、などと仰ってはいたが、この作品も今や多くの人に愛好される作品となった。

また、3年前には《吹奏楽のためのワルツ》が吹奏楽コンクール課題曲として委嘱され、私自身、創価大学パイオニア吹奏楽団を指揮して全国大会に臨んだ際も、彼は聴きにきてくれた。

そして本学の「吹奏楽コンクール課題曲クリニック」にお越しいただいた際も、当グリーン・タイウインド・アンサンブルを指揮していただいた。

そのときに、高さんの指揮を初めて拝見した。音楽性に溢れ、しかもとても分かりやすい指揮のため、テンポの変化に富んだこの曲を戸惑うことなく当時のグリーンメンバーは演奏した。

私自身、彼の作品をグリーン・タイで取り上げることも多く、2009年のグリーン・タイ初年度の最初のコンサートでは《パンソリック・ラブソディ》を、また《優しい花たちへ》も取り上げたことがあった(そのときは彼にコンサートを聴きに前田ホールに駆けつけてもらったのだが、終電が近かったのかすぐに帰られてしまい、あまり十分にお話できなかったのが残念だった)。また、ティムことティモシー・レイニッシュさんを指揮に招いた際には、ティム自身が《マインド・スケープ》を候補に挙げてきたのは嬉しかった。

世界の吹奏楽で大いに人気を博している高さん自身の指揮に、関東圏で接する機会はあまりない。そういった意味で、本日のコンサートは大いに価値のあるものになると思う。

本日のプログラムは、彼と私とで選んだ作品群である。《ヴェスヴィアス》は、高さんの選曲。アメリカの作曲家ティケリが、イタリアのヴェスヴィオ火山に思いを馳せて書いた作品。

《チーター》は、今年生誕100周年を迎えるカレル・フサの作品。これは私の選曲。高さんも私もフサ作品を大いに好んでいるのだが、ここは《ブラハ1968年のための音楽》でもなく、《吹奏楽のための協奏曲》でもなく、《アル・フレスコ》や《ル・クルール・フォーヴ》でもなく、あえて、フサさんの最後の吹奏楽曲であるこの曲を選んだ。ごく短い作品ながらフサのエッセンスが詰まっている。

フサはチェコの生まれでアメリカに帰化しニューヨーク州に住んでいた。1997年のオーストリアでのWASBEでは、フサさんと一緒にパネル・ディスカッションを行ったこともあった。

ちなみにこの大会には洗足の吹奏楽団もアルフレッド・リードさんの指揮で参加していた。たしか高橋敦氏(東京都交響楽団首席トランペット奏者、本学客員教授)がリードさんの《トランペット協奏曲》を初演されたのがこのときだったと記憶する。

フサさんとは、それがご縁で何度かお手紙をやりとりした。『A Composer's Insight』(Timothy Salzman 著)が上梓された際には、お互いの作品が隣り同士だねとお手紙をいただいたこともあった。HusaとItoなのでアルファベット順だとたしかに隣りになる。

《大阪俗謡による幻想曲》は、高さんが大阪を本拠地としているところからの選曲。ティエダ出版の原典版に基づき、大阪の匂いを漂わせてもらいたいと思う。

そして高さん自身の作品の中では、新作や未出版作品も含まれる。高昌帥さんの新しい地平を概観することができよう。今日は、私自身がワクワクする楽しみなコンサートである。

高昌帥

今、吹き渡る風

Koh, Chang Su / NOW, the wind blows

ステージ以外の場所で演奏される「バンド」として4パートのトランペットが用いられている華やかなファンファーレで、本日の演奏会を開幕する。

「ラシドレミ」あるいは「ドレミファソ」と奏でられる音型がさまざまなパートに散りばめられ、またコーラルを思わせるメロディとが交錯しながら曲は進んでいく。

「吹き渡る風」は同時に、「管楽器 (winds) が吹き鳴らされる」も意味する。さらにこの曲には、委嘱団体の名前も英題には織り込まれており、「なにわ《オーケストラ》ウィングズ、管楽器が吹き鳴らされる」といった掛詞にもなっているところに、作曲者のユーモアを感じる。

F. ティケリ

ヴェスヴィアス

Frank Ticheli / Vesuvius

作者のフランク・ティケリはアメリカの作曲家で、オーケストラや室内楽など様々な曲を手掛ける。現在は南カリフォルニア大学に勤務している。そんな彼が作曲したこの曲は、タイトルの通り、西暦 79 年にポンペイの町を破壊した、ヴェスヴィアス山の力やエネルギーを表現している。当初は古代ローマのバッカナリアの祭りでの、野生的で情熱的なダンスを表現しようと思っていたそうだが、作曲して行く中で、より爆発的で、かつ燃え盛るような何かを想像し始めたそう。そして、前進していくリズムや民族的な旋法、またディエス・イレからの引用等々によって、彼の描いていたバッカナリアのダンスは、運命の街、ポンペイの最後の日のダンスを表現するのにふさわしいものとなったそう。そんな激しさが溢れるこの曲をどうぞお楽しみください。

K. フサ

チーター

Karel Husa / Cheetar

チーターと聞いて、何を連想するだろうか。作曲者の

フサは、野生動物の象徴であり、現在は絶滅危惧種であるチーターの色や動き、力、スピード、そして最後に獲物の追跡に失敗した後の疲労困憊の様子をこの曲で表現したようだ。彼の抽象的なハーモニーによる言語や、緻密なまでに調整され、細分化されたリズムによって、不思議と複雑な表現を可能にしているのだ。生き物のよりリアルな感情や質感を感じさせる作品である。

カレル・フサはチェコ出身のアメリカの作曲家で、管弦楽曲や吹奏楽曲を作曲している。1969 年にピューリッツァー賞を、1994 年にグロマイヤー賞を受賞したことから世界的に注目されるようになる。そんな彼の生誕 100 周年を記念して、この作品を演奏する。

大栗 裕

大阪俗謡による幻想曲

Ohguri, Hiroshi / Fantasy on Osaka Folk Tunes

1956 年、関西交響楽団の活動が軌道に乗り始めた頃、当時の首席ホルン奏者だった大栗裕が、同年初めから春頃にかけて作曲したのが、この作品の原曲である管弦楽版です。

大阪フィルはヨーロッパ公演やアメリカ・カナダ公演など、様々な機会にこの曲を演奏します。そして 1974 年 5 月 30 日、大阪市音楽団第 28 回定期演奏会で、作曲者自身の手になる吹奏楽版が発表され、この曲が広く知られるようになった。

序奏は、お神楽やご詠歌を思わせる厳かな儀式的幻想。ダイナミックスを細かく設定して、管弦楽版以上に響りの深い表現が工夫されている。

Allegro の主部は、夏祭の様子を描いているが、正確に採譜して再現したのではなく、大栗裕の少年時代の思い出につながり、耳に今でも非常にはっきりした音でこびりついているものを使っており、「天神祭のだんじり囃子」や自作主題を挟んで、「私の氏神であった生國魂神社の子どもたちの獅子舞の音楽」を表現している。

Andante の中間部は、祭りの喧噪を離れ、提灯や燈籠の灯りの下で三味線を弾き、遠くから物売りの声が聞こえる夕涼みの情景と考えられている。

高昌帥

まじなひ～その参

Koh, Chang Su / MAJINAHl, the Third

冒頭にゴングの鳴り響く音が印象的だ。それには理由があった。タイトルに付された「その参」に先立ち、2015年にクロマティック・ゴングのためのソロ曲「まじなひ」を作曲、これをもとに金管楽器と打楽器の8重奏曲として「まじなひ～その式」が作曲された。さらにこれを吹奏楽に再構成したものが、今回演奏する「まじなひ～その参」である。クロマティック・ゴングやシェルツリーが使用されるどころや、基本となるリズム・パターンは引き継いでいるものの、ほとんど別の音楽になったと思って差し支えない。

まじない、漢字で書くと「呪い」となり、のろいとも読めてしまうが、作曲家自身がまじないと読んでほしいため、この綴り方にしたとのこと。

委嘱により作品を書くことが多い高氏ではあるが、この作品では、自ら書きたいことを書いた、と語る。

高昌帥

ナイトフォニー

Koh, Chang Su / Nightphony

タイトルの「NIGHTPHONY」とは、「夜の響き」を意味する造語である。この作品を書く直前に《木管五重奏とピアノのための「夜の響」》という曲を書いており、その続編・且つ最終楽章のような気持ちで作曲した吹奏楽曲となる。

序奏部は、夜のしじまを突き破るかのようにこの曲のモチーフとなる音型で重々しく始まり主題を印象づける。主題提示の変口短調は、一般的に「陰鬱で恐ろしい調」と称せられる。ミュージカル《オペラ座の怪人のテーマ》、ショパンの《ピアノ・ソナタ第2番（葬送行進曲付）《夜想曲第一番》は、優雅な中にも物憂い心の辛さも感じなくもない。高昌帥は「夜想曲の沈鬱さ」を同時に表現した。

Allegro は、高作品には必ずといっていいほど登場する「長短（チャンダン）＝朝鮮伝統音楽にみられる独特のリズム感と旋律装飾法」があり、このリズムがモチーフを変形させて快活に奏される。冒頭のモチーフと同様に、この曲のもう一つの核になっている。「魑魅魍魎が跋扈する様」は、ルーツを騎馬民族の持つ大

陸文化を源流とする、特有の律動感がある「長短」によって表現しているように考えられる。

高昌帥

コリアンダンス

Koh, Chang Su / Korean Dances (2002)

この曲は大阪音楽大学委嘱作品として2002年に作曲された。

「チャンダン（長短）」と呼ばれる韓国の伝統的なリズムの数々を用いている。

第1楽章「Preludio」はアンタンチャンダンに基づいた一種の行進曲風小序曲となっている。

第2楽章「Passacaglia」は古い民謡「鳥よ鳥よ、月よ月よ」を各楽器がソロ、あるいはパート、ソリとして引き継ぎながら繰り返す、幻想曲風変奏曲。

第3楽章「Rondo-Finale」は前二つの楽章の素材と、イングリッシュ・ホルンのソロが歌う新たな旋律をもととし、全曲中の展開部、終結部としての役割を持っている。

チャンダンは、朝鮮半島の数々の文化の中でも際立って独自であり、チルチェチャンダンのように複雑でありながらも、その独特のノリで人々を強く惹きつけている。

高昌帥インタビュー動画

初回りハーサルの際に撮影させていただきました。



Members

洗足学園音楽大学グリーン・タイ ウインド・アンサンブル Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble

学園の色の一つ「緑」を冠した吹奏楽授業。2009年、作曲家・伊藤康英と共に始動。作曲家の視点を交えた楽曲分析やこだわりの選曲が特徴。これまでに、ダグラス・ポストック氏とは10回にわたる「古典名曲シリーズ」を継続、日本初演、世界初演曲も数多く紹介してきた。また、ティモシー・レイニッシュ氏ら名だたる指揮者を招聘。藤岡幸夫氏がナビゲーターを務めるBSジャパンの人気クラシック番組「エンター・ザ・ミュージック」にもたびたび出演。また、台湾、シンガポール、韓国にて交流演奏会を行っており、広くアジアにも多くのファンを擁する。



2017年6月22日 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル(指揮:藤岡幸夫)公演

Concertmistress 石橋 優安 Inspector 洞口 菜々子 谷田 果奈美 福光 真由

Flute

足立 柚寿* 谷口 愛海 梅崎 真綾 榊原 里来 佐野 鈴菜 土持 志織 中川 彩
中川 花音 石川 裕葵 齊藤 麗 清水 花恵 山田 希宝

Oboe

宇治 愛 宮本 菜摘* 河村 玲於#

Clarinet

石橋 優安 洞口 菜々子 宮川 愛莉果* 山本 夢 大木 舞 上條 里彩 福永 愛華
伊藤 眞緒 笠 歌純 末光 はるか トラングエン・ゴックアン 村松 優衣 矢ヶ崎 貴史
橋本 治樹♪

Bassoon

塩谷 花笑 加藤 彩音 上治 唯奏 平川 眞鈴*

Saxophone

鹿島 理功 加福 夏子* 藤堂 紗也 谷口 綾乃 伊東 玲美 岩城 玄仁 佐藤 葵
重井 拓人 高橋 星良 山岸 咲野 大幸 拓未 渋谷 瑛奈

Horn

浅田 万結* 半崎 愛理 梶田 茉朋 金井 亮介 吉田 真菜#

Trumpet

垣本 真夢 神山 巧弥 草野 あんず 居石 まどか* 長田 彩希 水谷 樹里 磯野 沙弥香
植田 優花 佐々木 右京 堀江 風雅 石井 華音 神山 柁紀 友野 楓

Trombone

浅沼 花寿美 高木 咲希* 出田 希乃 長坪 海斗 永吉 彩花 三浦 健 林天祺
宇賀那 晴臣 森 秀人#

Euphonium

谷田 果奈美* 岩淵 由羽 清水 榛菜

Tuba

岡田 侑也* 下田 真寛 豊田 真悠子 寺崎 栞 遠藤 愛奈

Contrabass

稲垣 理有# 遠藤 加奈子#

Percussion

石川 歩 小栗栖 未久 佐竹 絵磨 福光 真由* 榎本 耀 大石 水紀 北山 絢萌
田代 万莉子 林 英希 林 拓海 福本 奏音 古橋 優実 前田 伶弥 村上 愛佳
八木 優弥 阿南 杏佳 大野 紗楽 小川 友李江 川崎 友仁 熊谷 彩夏 小山 梓

Piano

孫 百誼♪

Harp

三谷 真珠子#

#…演奏補助要員 ♪…賛助 *…パートリーダー

合奏指導教員：伊藤 康英／瀬尾 宗利 企画運営責任者：伊藤 康英 アカデミックコーディネーター：大島 健太郎

洗足学園音楽大学 グリーン・タイ ウインド・アンサンブル 演奏曲目一覧

● 2009 年度

- ◇ 7 月 12 日 指揮：伊藤康英
諏訪雅彦 16 世紀のシャンソンによる変奏曲
伊藤康英 「昔の歌に寄せて」～ヴァイオリンと吹奏楽のための協奏曲（3 楽章版初演）
ヴァイオリン独奏：水野佐知香
伊藤康英 こきりこ行進曲
高 昌帥 パンソリック・ラブソディ
伊藤康英 広島朝の歌（アンコール）
伊藤康英 木星ファンタジー
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

- ◇ 12 月 6 日 指揮：ダグラス・ボストック
N.dello Joio 中世の旋律による変奏曲
P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心
D.Bedford 波濤にかかる虹
J.B.Chance 朝鮮民謡による変奏曲
Ph.Sparke ダンス・ムーヴメント

- ◇ 3 月 指揮：伊藤康英／ダグラス・ボストック
台湾新竹市・台北市（國家音樂廳）
管樂狂潮（台湾・新竹教育大学との合同演奏会）
伊藤康英 広島朝の歌
伊藤康英 地球
伊藤康英 台湾花束

● 2010 年度

- ◇ 7 月 21 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.1～
G.Holst 吹奏楽のための第 1 組曲 変ホ長調
D.Milhaud フランス組曲
I.Stravinsky エボニー・コンチェルト
クラリネット独奏：山本茉莉奈（4 年）
P.Hindemith 交響曲変口調
P.A.Grainger リンカンシャの花束

- ◇ 11 月 27 日 指揮：本名徹次
For the Green Earth 「展覧会の絵」～緑の地球のために
三善 晃 札幌オリンピック・ファンファーレ
矢代秋雄 吹奏楽のための祝典序曲「白銀の祭典」
野田暉行 吹奏楽のための典礼風序曲
伊藤康英 三部作「惑星」より「地球」
M.P.Moussorgsky 伊藤康英版「展覧会の絵」（2 台 8 手ピアノ、サクソフォーン四重奏、混声合唱と吹奏楽のための交響的カンタータ）（アンコール）
トラディショナル（伊藤康英） アメイジング・グレイス
伊藤康英 一度っきりの人生

● 2011 年度

- ◇ 7 月 18 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.2～
夜から朝へ Night and Day
A.Copland エンブレムス
G.Holst 吹奏楽のための第 2 組曲へ長調
P.A.Grainger 民主主義行進の歌／コロニアル・ソング／ガム・サック
カーズ・マーチ
武満 徹 ナイト・シグナル
伊藤康英 明けない夜は無い（世界初演）
A.Roussel 栄光の日
F.Schmitt ディオニソスの祭（アンコール）
伊藤康英 にっぽんモーリス

- ◇ 11 月 26 日 指揮：増井信貴・鄭哲男・伊藤康英

- 高 昌帥 吹奏楽のためのラメント
西村 朗 秘儀 I 管楽合奏のための
保科 洋 吹奏楽のためのカプリス（2005 改訂版）
伊藤康英 サクソフォーンとユーフォニアムのための二重小協奏曲「カーニヴァルの日」（世界初演）
サクソフォーン独奏：小林 悟（4 年）
ユーフォニアム独奏：幸崎 仁（4 年）
★台湾国立新竹教育大学（現・清華大学）管楽団と合同で
伊藤康英 相馬フェスティバル・マーチ
陳 樹熙 客家風狂詩曲（日本初演）
伊藤康英 吹奏楽のための交響詩「ぐるりよざ」
龍笛独奏：吉川真登（アンコール）
高野辰之（伊藤康英） ふるさと（新編曲・初演）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2012 年度

- ◇ 7 月 11 日 指揮：秋山和慶
伊藤康英 交響詩「コラール幻想曲」
長生 淳 香り立つ刹那
新垣 隆 吹奏楽のための小品
G.Gershwin（伊藤康英） ラブソディ・イン・ブルー
ピアノ独奏：伊藤康英
G.F.Handel（伊藤康英） 王宮の花火の音楽より序曲
J.S.Bach（伊藤康英） シャコンヌ（アンコール）
J.S.Bach（伊藤康英） G 線上のアリア（新編曲・初演）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

- ◇ 12 月 15 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.3～
R.Vaughan Williams イギリス民謡組曲（第 2 楽章として「海の歌」を含む）
R.Vaughan Williams 交響曲第 8 番より第 2 楽章「行進曲風スケルツォ」
P.A.Grainger ヒル・ソング第 2 番
P.A.Grainger フムフレイの若者たちの行進曲
V.Nelhybel トリティコ
K.Husa ブラハのための音楽 1968（アンコール）
P.A.Grainger デリー地方のアイルランド民謡

● 2013 年度

- ◇ 7 月 3 日 指揮：秋山和慶
時は逝く As Time Is Passing On
兼田 敏 吹奏楽のための寓話
藤田玄播 天使ミカエルの嘆き
M.P.Moussorgsky（伊藤康英編曲） 歌劇「ソロチンスクの市」より「聖ヨハネ祭の夜」
伊藤康英 貝殻のうた
高 昌帥 優しい花たちへ
伊藤康英 交響詩「時の逝く」（アンコール）
にっぽんモーリス

- ◇ 11 月 11 日 指揮：ダグラス・ボストック
吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと Vol.4
アメリカへ An American Connection
D.Milhaud ウェスト・ポイント組曲
P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心
A.Schoenberg 主題と変奏
黛 敏郎 打楽器協奏曲
V.Nelhybel 復活のシンフォニア

● 2014 年度

- ◇ 7 月 12 日 指揮：ダグラス・ボストック
～吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと vol.5～
P.A.Grainger モールバラ伯爵のファンファーレ
R.Vaughan Williams トッカータ・マルチアーレ
G.Holst ハマースミス 前奏曲とスケルツォ
D.Bedford 波濤にかかる虹
P.A.Grainger 子供のマーチ「丘を越えてかなたへ」

三善 晃 スターズ・アトランピック'96
J.Absil 祭典 op.79 (日本初演)

◇7月21日(吹奏楽の祭典) 指揮:大滝 実
S.Rachmaninoff (伊藤康英) 交響的舞曲より第1楽章(新編曲・初演)

◆12月7日 指揮:増井信貴/プレトーク:滝澤尚哉・伊藤康英
フェネルがわたしたちに伝えたかったもの What Fred Told Us
C.Williams ファンファーレとアレグロ
R.R.Bennett シンフォニック・ソング
G.Holst (伊藤康英校訂) 吹奏楽のための第1組曲
J.B.Chance 朝鮮民謡による変奏曲
伊藤康英 管楽器のための序曲
R.Strauss (伊藤康英) 万霊節 op.10-8 (新編曲・初演)
R.Nelson モーニング・アレレヤ
群馬県民謡(岩井直溥) 八木節
J.P.Sousa 海を越える握手
H.Fillmore ヒズ・オナー
(アンコール)
伊藤康英 Get Well, Maestro
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

●2015年度

◇6月24日 指揮:藤岡幸夫
J.Barnes 祈りとトッカータ
S.Rachmaninoff (伊藤康英) 交響的舞曲より第1楽章
西村 朗 秘儀III—旋回舞踏のためのヘテロフォニー
伊藤康英 吹奏楽のための交響詩「ゴー・フォー・ブローク」
R.Wagner (伊藤康英) 歌劇「ローエングリン」第2幕より「エルザの大聖堂への行列」(新編曲初演)
R.Schumann (伊藤康英) 歌曲集「ミルテの花」より「献呈」(初演)
A.Reed 第2交響曲
(アンコール)
A.Reed 第2組曲より「ソーン・モントゥーン」
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月12日 指揮:ダグラス・ポストック
吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと Vol.6
チェコからの風 The Czech Connection
L.Janáček「シンフォニエッタ」よりソコル・ファンファーレ
K.Husa アル・フレスコ
V.Nelhybel 吹奏楽とピアノ独奏のための「トッカータ・フェロウ
チェ」(日本初演)

ピアノ独奏:遠藤龍軌(2年)
A.Reed アルメニアン・ダンス・パート2
伊藤康英 彼がわたしたちに語ったこと バリトン、ソプラノと
吹奏楽のために(日本初演)
バリトン独唱:泉 良平(客員教授)
ソプラノ独唱:伊藤紫央里(本学卒)
Eb コルネット:植竹祐太(4年)
P.A.Grainger 固定されたド(自鳴するC)
F.Ticheli エンジェルス・イン・ジ・アーキテクチャー
ソプラノ独唱:伊藤紫央里
(アンコール)

J.Fučík フロレンティーナ行進曲
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

●2016年度

◇7月15日 指揮:藤岡幸夫
吹奏楽傑選 藤岡幸夫と伊藤康英が選ぶ神7!
三善 晃 吹奏楽のための「クロス・バイ・マーチ」
J.A.Caudill バンドのための民謡
R.Jager シンフォニア・ノビリッシマ
F.Schubert (伊藤康英) アヴェ・マリア(エレンの歌 第3番)(新
編曲・初演)
河辺公一 高度な技術への指標
L.Bernstein プレリュード、フーガとリフ
クラリネット独奏:大森雅弘(4年)
V.Nelhybel 復活のシンフォニア(V.Nelhybel)
伊藤康英 吹奏楽のための序曲「平和と栄光」

副指揮:竹内健人(4年)
(アンコール)
カタロニア民謡(伊藤康英) 鳥の歌(新編曲・初演)
トロンボーン独奏:松原昇平
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月6日《指揮:ダグラス・ポストック》
~吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと vol.7~ 温故知新 Old
Wine in New Bottles
G.F.Handel「王宮の花火の音楽」より序曲 ブーレ 歓喜(新編
曲・初演)
Ph.Sparke リフレクションズ~ある古い日本俗謡による
伊藤康英 津軽三味線協奏曲
津軽三味線独奏:山中信人(本学講師)
津軽三味線合奏:稲沢栄梨 谷川祐司 塚本鷹 塚本準也 横田
匡
P.A.Grainger リンカンシャーの花束
E.Gregson 剣と王冠

●2017年度

◇6月22日 指揮:ティモシー・レイニッシュ/藤岡幸夫
P.A.Grainger 民主主義行進の歌
G.Holst (伊藤康英校訂) 吹奏楽のための第1組曲
J.S.Bach (伊藤康英) シャコンヌ(2017新編曲・初演)
K.Hesketh ダンスリーズ
L.S.Alarcón ドウエンデ 吹奏楽のための4つの前奏曲(日本初
演)
A.Gorb イディッシュ・ダンス
(アンコール)
J.Brahms (伊藤康英) 日曜日/恋人のもとへ
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇12月12日 指揮:ダグラス・ポストック
古典名曲を名匠ポストック氏と Vol.8
イギリスとフランスとの長い戦争の歴史を振り返りながら、今、
考える平和。Anglo-French Gala
L. van Beethoven (伊藤康英) 交響曲「ウェリントンの勝利または
はヴィットリアの戦い」作品91(新編曲・初演)
R.Vaughan Williams イギリス民謡組曲
F.Schmitt ディオニソスの祭
D.Milhaud フランス組曲
伊藤康英 グリーンスリーヴスの主題による幻想曲(世界初演)
E.Gregson 王たちは出陣する
(アンコール)
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇2018年3月9日 指揮:伊藤康英/ダグラス・ポストック
台湾新竹市
管樂狂潮(台湾・清華大学との合同演奏会)
伊藤康英 煌夜~祭の幻想
伊藤康英 グリーンスリーヴスの主題による幻想曲
伊藤康英 交響詩「ぐるりよざ」
A.Reed アルメニアン・ダンス パート1
P.A.Grainger 子供のマーチ「丘を越えてかなたへ」
Ph.Sparke 宇宙の音楽

●2018年度

◇7月1日 指揮:ティモシー・レイニッシュ
ティモシー・レイニッシュ 80歳記念
戦争と平和 War and Peace
A. Gorb アウェイデイ
G.Woolfenden イリュリア人の踊り(日本初演)
D.del Tredici 戦時に
L.S.Alarcón コンチェルトタンゴより第1楽章(日本初演)
アルト・サクソフォーン独奏:荒木真寛(4年)
伊藤康英 タイム・イントウ・ミュージック(日本初演)
C.Marshall ロム・アルメ(武装した人) 変奏曲(日本初演)
(アンコール)
メンデルスゾーン(伊藤康英) 歌の翼に(新編曲・初演)
伊藤康英 にっぽんモリス

◇12月11日 指揮:ダグラス・ポストック

グリーン・タイ 10 周年記念
吹奏楽の古典名曲を名匠ポストックと Vol.9
リジョイス！ 祝賀 Rejoice!
伊藤康英 吹奏楽のための祝祭曲「集え、祝え、歌え」
O.Waespi 讃歌（日本初演）
J. シュテルト バッハザイツ
A.Hovhaness 交響曲第 53 番「星の燭光」作品 377（日本初演）
V.Nelhybel The S-S-S（砂粒・静けさ・寂しさ）（世界初演）
真島俊夫 三つのジャボニスム

● 2019 年度

◇ 6 月 25 日 指揮：ティモシー・レイニッシュ
R.Vaughan Williams (ed. F.L.Battisti) トッカータ・マルチアーレ
P.A.Grainger ローマの権力とキリスト教徒の心
高 昌帥 ウインドオーケストラのためのマインドスケープ
伊藤康英 彼がわたしたちに語ったこと バリトンと吹奏楽のために（日本初演）
バリトン独唱：泉 良平（本学客員教授）
K.Hesketh ダンスシリーズ（セット II）
A.Gorb クレタ島の舞曲
（アンコール）
L.S.Alarcón TIM〜ブリティッシュ・パソ・ドブレ（日本初演）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

◇ 12 月 10 日 指揮：ダグラス・ポストック
V.Nelhybel アンティフォナーレ 金管六重奏と吹奏楽のために
P.A. グレインジャー コロナリアル・ソング
松下 功 天空の祈り〜とうとき命に〜
伊藤康英 ピース、ピースと鳥たちは歌う
G. ホルスト ハマースミス 吹奏楽のための前奏曲とスケルツォ
Ph. スパーク 宇宙の音楽
（アンコール）
P.A. グレインジャー 岸辺のモリー
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2020 年度

（前期コンサートは、COVID-19 の影響により中止）

◇ 12 月 1 日 指揮：藤岡幸夫／伊藤康英
A.Reed 音楽祭のプレリュード
L.Serrano Alarcón 小組曲（日本初演）
L.Serrano Alarcón 演奏会用パソドブレ「ラ・リラ・デ・ボズエロ」
（日本初演）
C.T.Smith フェスティヴァル・ヴァリエーションズ
R.Kurka 組曲「善良な兵士シュヴェイク」Op.22 より
序曲 ラメント フィナーレ
伊藤康英 交響詩「ぐるりよご」より第 1 楽章
Ph. スパーク ドラゴンの年
（アンコール）
伊藤康英 悲しみから歓びへ（3 声のカノン）
伊藤康英 マーチ「一度っきりの人生」

● 2021 年度

◇ 7 月 13 日 指揮：藤岡幸夫
伊藤康英 古いスペインの歌によるディフェンシアス（初演）
山下康介 蠢動のワルツ（吹奏楽版委嘱／初演）
松下倫士 ラメント〜旧約聖書「哀歌」に基づいて
Ph.Sparke 古い日本民謡によるリフレクション
三浦秀秋 バロック・コンチェルト
J.van der Roost／カンタベリー・コラール
鹿野草平 交響曲第 1 番《2020》より第 4 楽章「叡智」
（吹奏楽版共同委嘱／初演）



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。